

山の神沢

昭和十一年六月二十八日

中津川林道をしばらく歩き、七号橋より沢に入って、遡行開始。

出合からしばらくは、滝が出てきそうな雰囲気であったが、二ツチヨツクストーン滝を過ぎたあたりから明るくなって、ナメ床が続くようになる。

やがて両岸が開け、左岸から一〇〇程のナメ滝をかけて右支沢が合流する。我々の今日の目標は、本流である。

ナメ床がしばらく続く。やがて四ツの滝。これを過ぎると、沢は平地を流れる小川のようになるが、その後傾斜をまましてゆく。

まもなく再びナメ床となって、小滝が連続して現れる。その後も沢はナメが続く、左に大きく曲がってゆ

山の神沢右支沢

昭和十一年六月二十九日

大沢遡行終了後、稜線より山の神沢右支沢の源頭部めざして下降する。

しばらくヤブをこいで、沢の頭に出る。

かなりの急勾配で下降していくと、長いナメ床の下りとなった。このナメ床は山の神沢本流出合まで連続し、

やがて水量も少なくなり、ヤブがかかるようになる。しばらく進むと、水も濁れる。あとは水のない沢をつめ、五分足らずのヤブこぎで稜線に出る。

〔タイム〕 出合(一〇:〇〇)↓遡行終了(二二:五五)

出合には一〇〇程のナメ滝のおまけ付きであった。

山の神沢本流出合に着いたあたりから、雨がポツリ、ポツリと降り出してきた。帰路を急ぐことにする。

〔タイム〕 稜線(二五:四〇)↓下降

開始(一五:四五)↓山の神沢本

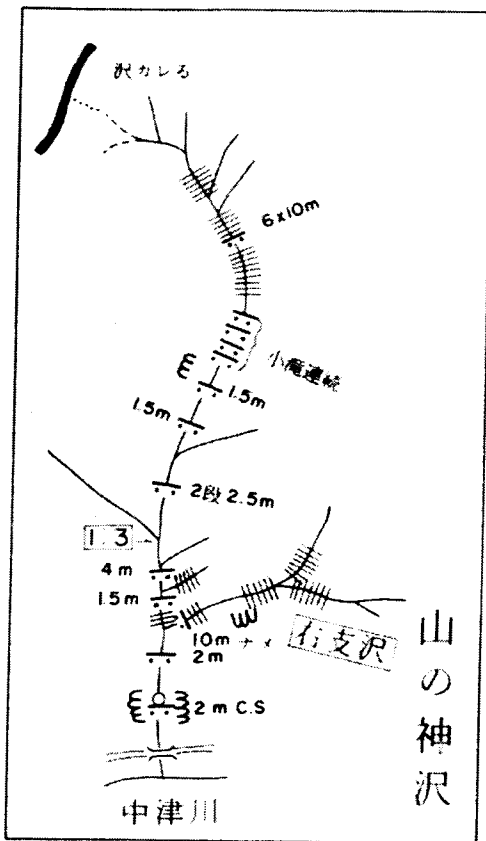
流(一六:〇〇)

大沢

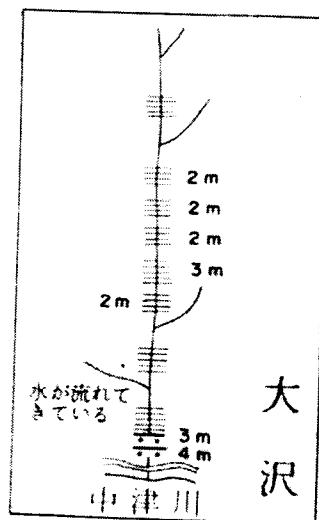
シナヅメ
一九八五年一〇月一九日

中津川林道ゲートに車を置いて、林道を歩く。毎度のことながら、ゲートの存在がうらめしく感じられて仕方がない。三〇分程で大沢出合。林道からの取り付きは、いきなり

四段、三段と続く二段滝である。水が一滴もないカレ沢であるが、高橋さんのためにザイルを使用して登る。上はナメとなっていた。一五分程歩くと水が出てきた。出



合から全部岩盤であるのに、水はどこへ消えてしまうのだろう。不思議である。この先もナメの連続である。ヤブになってきたあたりで遊行



終了とし、山の神沢右支沢の下降めざして右岸のヤブこぎを開始する。

(記)

「タイム」 林道ゲート(一四:三〇)
↓大沢出合(一五:〇〇)↓遊行
終了(一五:三〇)

